

第 3497 図



けはぎ

一名 やまみやぎのはぎ

*Lespedeza patens Nakai*

北陸地方のブナ帯の向陽地に野生する多年生の半灌木、高さ1-1.5m、茎は角張り下部は木化するが地上部の大部分は年々枯れる。枝は立つもの、枝垂れるもの等種々であり、また茎と葉とを通じて立毛のあるものから全く伏した毛しかないものまで、種々その変異がある。小葉は狭い楕円形から殆んど円形に近い迄に変化し、長さ2-5cm、薄い膜状草質、淡緑色が多い。花は早いのは5月に咲くが多くは秋に入ってからで、花形花色はミヤギノハギに似て濃紅紫、(竜骨弁は碧紫色)であるが、旗弁が長楕円形でなく円に近い楕円形となる点で区別できる。時に栽植し、5月の開花の故にサミダレハギともいう。

第 3498 図



しらはぎ

*Lespedeza japonica L. H. Bailey*

元来は朝鮮半島の自生というが、古くから栽植されている半灌木。高さ1.5m程で叢生し、多少枝垂れた大株となる。普通茎は冬に殆んど根元近くまで枯れる。小葉は楕円形で稍々鈍に近く尖り、表面は深緑色、ルーペでみえる程度の伏した毛がある。花は白色、又は紅紫色、稀に白と紫とがまじり、ミヤギノハギより大形、殊に旗弁が開花後に閉じた時には不釣合に大きくみえる。関西地方に栽培するものに、小葉が鈍端に終るものがあり、紅紫花が美しいのでニシキハギ(*L. nipponica Nakai*)という。又岡山、兵庫の山地にはビッチュウヤマハギ(*L. kiusiana Nakai*)と云い、シラハギより多少花の小さいものがある。いずれも種としては同一であろう。

第 3499 図



ていこ(刺桐)

一名 ていぐ

*Erythrina indica L.*

印度原産の大喬木で、広くマレーシア、太平洋諸島に栽植され、琉球、八丈島、小笠原島にもあり、琉球方言デーグには漢字梯姑が当てられている。高さ10m以上に達し、幹は太く瘤状に凹凸があり、肌は灰白色である。枝には太い刺があり、葉は3小葉より互生する。小葉は全縁で先端鋭尖し、頂小葉は大形で、菱状広卵形、長さ4-10cm許、基部は広楔形又は截形、側小葉は広卵形、基部截形又は浅心臟形、腺体は頂小葉の柄の上方に1対及び側小葉の柄の基に各1個ある。枝端から短大な総状花序を1-3個開出して生じ、帯紫濃朱赤色の蝶形花を密生し、斜下向して花序の下方より順次に開く。萼筒は先端に細小歯があり、側方が深く裂けて舟形をなし、旗弁は狭卵形で縁辺は多少内曲し、他の花弁は小形、雄蕊は2体をなし、長く超出し、子房は有毛、花後2-4個の種子を有する莢を生ずる。

まるぼやはずら

*Microlespedeza stipulacea Makino*;

(= *Kummerovia stipulacea Makino*;

*Lespedeza stipulacea Maxim.*)

路傍、原野などに普通の1年生小草本。茎の高さは10-20cm許、根本から分枝を開出或は斜上して多く生じ、枝は細く強靱で、上向する圧毛があり、葉はやや密に互生し、倒卵形、短柄の先に凹頭の小葉を有し、托葉は狭卵形、鋭頭、小葉には明瞭な支脈が平行に並んでいる。夏秋の候、葉腋に短梗をもって接着した帯紅紫色の小蝶形花及び無弁の閉鎖花を生じ、萼は鐘形無毛で卵形の裂片5個あり、卵形の小苞を伴う。雄蕊は2体をなし、花後、1種子を有する小莢果を結ぶ。果は円頭、扁平で乾いても開裂せず、半ば以上は萼筒の上に現われる。

しばはぎ

*Desmodium Buergeri Miq.*

本州中西部、四国、九州など暖地向陽の所に生ずる半灌木で、琉球、台湾、支那、印度支那、マレーシア、太平洋諸島にも広く分布する。根元より瘦長な枝を分つて直立或は斜上し、茎及び葉裏に灰白色の伏毛がある。葉は疎に互生し、披針形の托葉を具え、葉柄はやや短かく、小葉は3個ある。小葉は倒卵状長楕円形で円頭又は僅かに凹頭、長さ2-3cm許、質はやや厚い。花序は細長で、開出毛があり、頂生及び腋生、稍密に帯紅紫色の小形蝶形花を着ける。萼は脱落性、花は長さ5mm許あり、萼筒は深裂して披針形の裂片をなし、莢はやや扁平、直立し、数節があり、表面に鈎毛を密生し、節間は切れて人衣等他物に附着する。

さいこくときわやぶはぎ

一名 おおぬすびとはぎ

*Desmodium austrojaponense Ohwi*

(= *D. Tashiroi* auct. jap. non

*Matsumura*)

本州(遠江)、四国、九州の暖地の常緑林下に生ずる常緑の多年生草本で、茎の下方は木質化する。高さ60-100cmに達し、葉は互生であるが、通常茎頂に数葉相接近して生じ水平に展開する。早落性の托葉は披針形、葉は長柄を有し、小葉は3個、卵形又は狭卵形、鋭尖頭、紙質で頂小葉は鈍楔脚、側小葉も略同大で鈍脚、左右不同、上面は深緑色で短い伏毛があり、下面は淡色で、網脈は明かである。夏秋の候、瘦長で、下方で少しく分岐する花序を茎頂に生じ、淡紅紫色の小形蝶形花を疎に着ける。花は長さ7mm許、繊長な小梗があり、萼歯は低三角状、莢は扁平、半截広倒卵形で、微なる鈎毛があり、他物に附着する。

第 3500 図



第 3501 図



第 3502 図

